

令和 6 年度関東東北地方鉱山保安協議会東北地区部会 議事概要

1. 日時： 2025 年 3 月 17 日(月曜日) 13 時 00 分から 15 時 00 分
2. 場所： 仙台第 2 合同庁舎 8 階会議室(オンライン会議併用)
3. 議事概要： 審議事項はなく、報告事項について事務局から報告を行い、以下の質疑応答がありました。

●資料 1 第 14 次鉱業労働災害防止計画に基づく取組の評価について

1 Q. 佐藤委員

- ・ 19 頁 保安検査による指摘の内訳の「保安教育」とは、具体的にどのような指摘か。

A. 事務局

- ・ 必要な保安教育が実施されていないというより、保安教育の記録が整備されていない等の指摘内容である。

2 Q. 飯塚委員

- ・ 11 頁 1. 鉱山保安マネジメントシステムの導入促進のところで、本格導入の鉱山が令和 5 年度から令和 6 年度で減っているのは、毎年の取り組みで評価されるので、そういうこともあると理解したが、どういう要因で下がったりすることが多いのか。

A. 事務局

- ・ 鉱山が自己採点して点数を付けているので、組織体制が変わった時に一部手薄になった可能性がある。また、中小の鉱山ではマネジメントシステム担当者が代わったりすると回らなくなり、ランクが下がることもあり得ると考えている。

3 Q. 木崎委員

- ・ 7 頁、令和 6 年 3 月から 4 月に立て続けて発生した災害について、何か環境的な外部要因はあったか。これまでの他の災害についても、季節要因とか、季節によっては事故件数が多いとか、そういう傾向が見られるか。

A. 事務局

- ・ この 3 件については季節的要因や環境的な外部要因は考え難い。
- ・ 最初の災害については、時間的な問題はあったが、二つ目の災害は人が少なかったため、罹災者は自分が作業した方が早く対応できると考えて作業してしまったとか、経験年数が浅い作業員であり、良かれと思い作業してしまったことが、要因と考えている。

4 Q. 宗石委員

- ・ 近年、弊社でも年々高年齢労働者が増えてきており、監督部主催の災害防止対策に関する講習会等があれば、ぜひ参加したいと考えているが、東北支部では講習会等の計画はないか。

A. 事務局

- ・ 高年齢労働者に関する単独の講習会等は、いまのところ検討していないが、一昨年は、保安講話で、厚労省のガイドラインに基づいた取組等について紹介した。御社でもできることがあると思うので、そういった取り組みを行ってもらうと共に、当支部でできることがあれば考えていきたい。

●資料 2 鉱害防止の取り組みについて

1 Q. 日野委員

- ・ 2 頁 1. 令和 6 年度監督指導(鉱害関係)の実施状況、②立入検査における指摘において、「石油坑井検査・石油坑井の廃坑促進 1 件」となっているが、石油鉱山の鉱業権者としては気になるところであり、どのような指摘か教えてほしい。

A. 事務局

- ・ これは、既に廃止した坑井について、鉱業権者の廃坑資金の目処が立っていないとの理由で廃坑措置が未実施であり、放置しておくとは鉱害問題の発生に繋がることから、措置の実施について指摘したもの。

2 Q. 佐藤委員

- ・ 6 頁 3. 令和 6 年度鉱害事案の発生状況（全国、東北）で、「坑廃水」で全国と東北との比較で令和 5 年・6 年はほぼ、極端に東北だけで起きているのは数の問題なのか、それとも何か特徴的なことがあるのか。

A. 事務局

- ・ 東北管内は、金属鉱山はじめ休廃止鉱山自体多いことが起因していると考える。

3 Q. 氏家委員

- ・ 立入検査の指摘の中で集積場が一番多いとのことだが、当社の集積場でも大雨により排水系統の詰まり等が発生することがあるが、他にも猪による被害が多く、全国にも被害が拡大しているのか、もし発生しているのであれば、どのような対策をしているのかご教示頂きたい。

A. 事務局

- ・ 管内において、集積場の堤体における猪の被害については、2～3 鉱山で確認されており、穴を開けてミミズを食べている等の被害は聞いている。安定性に影響がないよう、穴を見つけたら塞ぐ等の対応を指導している。全国の事例は不明である。また、対策として電気柵を設置したが、被害は変わらなかったとの事例を聞いている。折角植生したが、猪の他に鹿が来ているとの話もあった。

●資料 6 中央鉱山保安協議会議事報告について

1 Q. 進藤委員

- ・ デジタル技術の活用に関して、中央鉱山保安協議会の資料 4 の 3 頁目 4②に、国からでデジタル技術の活用について国から情報提供する旨の記載があるが、どのようなものがあるか。

A. 事務局

- ・ 現時点で具体的な情報は把握していない。
- ・ 石灰石鉱業会など業界団体では、ドローンの活用や、監視の部分で取り組んでいると思う。
- ・ 経済産業省のホームページに優良事例を公表しているので、今後デジタル技術の活用に関する事例があり、年度明けに整理されると思うので、順次鉱山へ情報提供したい。

●その他

1 Q. 大庭委員

- ・当鉱山は幸い無災害を継続しているが、保安活動は毎年同じようなことをしていて、形骸化してしまいがちであり、すぐ慣れてしまいマンネリ化してしまう。監督部から共有される災害事例も、朝礼で話ただけで終わってしまっている。一昨年ぐらいから、自分たちで保安活動を考えさせるようにさせているが、これに対して打破する良い事例が他鉱山であれば教えてほしい。

A. 事務局

- ・小集団活動で、自ら改善していくような活動を進めることが考えられる。
- ・同じことの繰り返しに陥るのはどこもそうであると思うが、その中で趣向を変えていく必要がある。
- ・鉱山でない工場で聞いた事例であるが、詰所にノートを設置し、失敗したこと、ヒヤリハットを記載させ、後で振り返ることで気づきを得るようにしているとのこと。

●大河原部会長

3件発生した災害は、たまたまかもしれないがいずれも経験年数が5年未満とのことで、人材育成・教育の重要性をあらためて認識した。情報共有も含め、さらなる対応が必要と感じた。

以上もちまして本日の議事を終了させていただきます。御協力ありがとうございました。

以上